

JACET-Kanto Newsletter

一般社団法人大学英語教育学会関東支部

September 30, 2025, No.25

目次

卷頭言

JACET 関東支部長	鈴木彩子	-1-
<u>第 64 回国際大会報告</u>		
支部大会運営委員長	山口高領	-2-
関東支部運営についてのアンケート結果報告		
支部大会運営委員長	山口高領	-3-
<u>JACET 関東支部講演会（第 1 回）報告</u>		
支部講演会委員長	青木理香	-5-

各委員会からの報告

・支部講演会委員会	支部講演会委員長 青木理香	-6-
・支部紀要編集委員会	支部紀要編集委員長 鈴木健太郎	-6-
<u>事務局だより</u>		
支部事務局幹事	佐竹由帆	-7-

JACET 関東支部ニュースレター第 25 号 (WEB 版) 刊行に寄せて

新支部長 鈴木彩子（玉川大学）

この度、2025 年 6 月に第 6 代関東支部長に就任いたしました鈴木彩子（玉川大学）です。これまで歴代の支部長のもとで研究企画委員として支部の活動に携わってきましたが、今年からは運営をする立場となり、身の引き締まる思いです。これまでの経験を活かし、支部会員の先生方の研究・教育活動に貢献できるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願ひいたします。

さて、2025・26 年度は、総勢 30 名の新体制で支部活動を運営してまいります。副支部長は伊藤泰子先生（神田外語大学）、中山夏恵先生（文教大学）にお願いしております。支部事務局幹事は、佐竹由帆先生（青山学院大学）、新井巧磨先生（早稲田大学）、鈴木健太郎先生（北海道教育大学）に引き続きお引き受けいただき、支部幹部として青木理香先生（東洋大学）にもお力を貸していただいております。さらに、23 名の研究企画委員の先生方にも、それぞれ支部の運営に欠かせないお

仕事を引き受けて頂いております。

関東支部では、英語教育の向上を目指し、様々な活動を行っております。その柱となるのは、支部紀要『JACET-KANTO Journal』の発行、講演会・研究会・ワークショップの実施、ニュースレターの発行、そして関東支部大会の開催です。

例年 7 月に開催しております関東支部大会は、今年度は早稲田大学で第 64 回国際大会（8 月 27 ~29 日）が実施されたため、開催を見送りました。支部として、準備から当日の会場運営まで多岐にわたり、国際大会の運営に携わりましたことをご報告させていただきます。JACET 本部のニュースレターで詳しい報告がなされますが、天候にも恵まれ、会場の立地の良さもあってか、多くの方にご参加いただきました。ご来場いただいた関東支部の先生方にとどても、研究・教育の発展に繋がる場となっていれば幸いです。また、今回の国際大会の成功は、前支部長である山口高領先生のご

尽力なくしては語れません。この場を借りて皆さんにご報告するとともに、心よりお礼申し上げます。

支部講演会につきましては、6月21日に渡辺敦子先生（文教大学）をお招きし、「リフレクションとは？：その変化と発展」についてご講演いただきました。Zoom開催の利点を活かしたインタラクティブな内容で、参加者の皆さんも大いに理解を深められたことと思います。また、10月4日には、藤田恵里子先生（日本大学）による「“できる気がする”を科学する—自己効力感の見える化—」の講演を予定しています。ぜひご参加ください。11月には支部長企画の講演会も予定しております。詳細は7ページの「事務局だより」をご覧ください。

『JACET-KANTO Journal』に関しては、2026年3月の第13号の発行に向け、活発に準備を進めています。今後も質の高いPeer Review体制を維持し、支部会員の皆さんにとって価値のある研究発表の場を提供できるように努めてまいります。

これらの活動は、このニュースレターを通して皆さんにお届けしていきます。支部活動の充実ぶりを感じていただき、より多くの先生方に様々な形で支部活動にご参加いただけたら幸いです。

また、12月6・7日には立命館大学大阪・いばらきキャンパス JAAL in JACET が開催されます。JACETホームページに詳細が出ておりますのでご確認ください。多くの皆さまのご発表・ご参加をお待ちしています。なお、SIG発表の申し込み締切は10月20日となっています。

支部長としてはまだまだ若輩者ですが、支部研究企画委員の先生方の力を借りしながら、「なんか楽しいな」と感じていただける活動を目指していきたいと考えています。「支部長が変わって質が落ちた」と言われないように頑張ってまいります。今後とも、ますますのご支援・ご協力をお願いいたします。

**第64回 国際大会（東京、2025）報告
支部大会運営委員長
山口高領（秀明大学）**

今年度は、第64回JACET国際大会が東日本ブロックで開かれる年であり、関東支部の早稲田大学で開催されるということを踏まえ、例年7月上旬に開催される関東支部の支部大会を開催せず、私は国際大会の主に会場まわりの取りまとめ役として働き、国際大会の準備に研究企画委員の先生方にご尽力いただきました。なお、第51回サマーセミナーが8月26日に開催されましたので、その前日準備から数えると、5日間にわたり、JACET会員の運営の先生方にお手伝い頂きました。このように、関東支部だけでなく、すべてのJACET会員の運営の先生方のおかげで開催できました。多くの贊助会員の展示がありましたが、大会スポンサーだけでも21社と最大規模でした。関東支部ニュースレターですので、本稿では、私が特に関わった関東支部の先生を中心にお礼の挨拶を申し上げます。関東支部研究企画委員の先生方につきましては、ご所属の記載を省略しております。

まず、早稲田大学商学部の浅利庸子先生のおかげで、会場校として早稲田キャンパスの11号館を使用することができました。育休の関係で、商学部の森田彰先生に様々な手続きをして頂きました。早稲田大学商学部の事務のみなさまにも急な対応を含めて、お手間をおかけしました。

今回の国際大会の準備は企画段階から始まりました。この段階では、研究企画委員の中でも本部の理事をされている上田倫史先生、馬場千秋先生が関わっています。他の関東支部の研究企画委員の先生方には、大きくプログラム関係と当日の大会業務をお願いしました。プログラム関係は3月末の一般発表の採否の連絡が業務としてありました。採否の通知というなかなか気を遣うこの業務には、伊藤泰子先生、長田恵理先生、佐竹由

帆先生、中竹真依子先生、渡辺彰子先生にご協力を頂きました。

その後、会場校の教室をどのように使うかという検討や、会場校でのお花、お弁当、お水、学生アルバイトの手配といった業務がありました。早稲田大学の学生は少なく、様々な大学の学生 36名が参加しましたが、それが叶ったのは、森田彰先生、早稲田大学折井麻美子先生、学習院女子大学萱忠義先生、玉川大学森本俊先生、青山学院大学高木亜希子先生、吉原学先生、馬場千秋先生、辻るりこ先生からのお声掛けのおかげでした。萱先生におかれましては、海外の提携学会の先生方とのやりとりで多くの時間を割いてくださいました。

サマーセミナーの準備・当日にも関東支部の先生がご協力くださっています。関東支部の先生からは、日本大学小林和歌子先生、登道孝浩先生、玉川大学今井光子先生、河内山晶子先生、藤枝豊先生のご協力を頂きました。セミナー講師の Aurelio Vilbar 先生とのお食事会では、元 JACET 会長の神保尚武先生を偲びました。

国際大会前日準備から特にお世話になった先生は、下山幸成先生、玉川大学黒嶋智美先生、帝京科学大学金田拓先生、成城大学水澤祐美子先生、東洋英和女学院大学武藤克彦先生、近畿大学吉田諭史先生、吉原学先生です。下山先生には会場の掲示をより親切にするための助言、黒嶋先生は荷物の搬入、金田先生はオンラインでの情報発信 Hub の運営、水澤先生には海外提携学会のアテンド、武藤先生には賛助会員対応で、吉田先生には掲示物の作成で、吉原先生には PC 機器接続関係で、大変お世話になりました。

大会期間中は、大会本部や受付でお手伝いくださった先生は、関東支部の先生では、稻田貴子先生、大井洋子先生、大野真機先生、長田恵理先生、狩野紀子先生、神村幸蔵先生、中央大学栗原文子先生、小屋多恵子先生、史傑先生、芝浦工業大学新谷真由先生、辻るりこ先生、西川恵先生、登道

孝浩先生です。

今回、懇親会も盛会でありました。ここで、企画担当の上田倫史先生、鈴木彩子先生にお礼を申し上げます。中山夏恵先生には司会をお願いしました。懇親会では、提携学会の先生方にお話を少しして頂き、例年以上に参加者同士の交流が深まっていたように思います。

大会期間中、JACET 名誉会長小池生夫先生、元会長寺内一先生、前会長小田眞幸先生、関東支部元支部長である早稲田大学名誉教授中野美知子先生と、青山学院大学名誉教授木村松雄先生をお見かけしました。小池先生には懇親会でお言葉を頂きました。私が大会本部にいたためお会いできませんでしたが、元支部長の東洋大学藤尾美佐先生にはご発表を頂きました。

以上の業務は、もちろん私だけでとりまとめをしたではありません。現在支部長である鈴木彩子先生とチーム体制で進めました。ここにお名前を挙げなかった先生方も、大会に参加してくださったおかげで、コロナ後として最大規模の 788 名の参加となる国際大会となりました。

関東支部運営についてのアンケート結果報告

支部大会運営委員長

山口高領（秀明大学）

本年も、昨年同様、アンケートを行いました。昨年度から、支部大会だけでなく、支部の他の企画などについても伺っています。回答をしてくださった先生方、ありがとうございました。頂いた意見を参考に、支部運営会議で来年度の事業計画を立てまいります。また、関東支部の運営にお手伝いをしても構わないと回答を頂いた先生には、後日ご連絡差し上げます。

対象：JACET 関東支部一般会員・学生会員

回答期間：2025 年 9 月 10 日から 2025 年 9 月 19 日

回答数（重複数）：30(1)

重複のない結果 (n=29) を以下に示します。

会員種別：一般会員 27 名；学生会員 2 名

1. 開催形態の希望とその理由（入力回答すべてを掲載）

1-1. 一般会員 27 名

(a) Zoom : 4 名(15%)

理由：

- ・Zoom で開催いただきますと参加しやすい
- ・参加がしやすい

(b) 対面 : 8 名(30%)

理由：

- ・対面だと発表の合間に会話や議論などもできて、より充実した時間が過ごせると感じるため。
- ・対面の方が、発表者、講演者の熱意、場の雰囲気がよく感じ取れるため。
- ・直接質問や意見交換がしやすく、セッション終了後も演者に声をかけやすく、研究交流が充実するため。
- ・SIG や会議などはオンラインの方がいいと思いますが、大会は対面する機会として残すのも一つの方法かと思います。

(c) High Flex : 13 名(48%)

理由：

- ・Give options to people
- ・より多くの会員の要望に応えるため
- ・知見を共有できる貴重な機会のため、開催を望みますが、その時の予定などで遠くに行けないときにも Zoom で参加できればありがたいと思います。
- ・開催日時によっては都合により会場へ行かれないことがあるため。
- ・出先からでもアクセスできるので。
- ・ご準備が大変でいらっしゃるかとは思いますが、ハイフレックスの方が、より多くの方が参加でき

るのではないかと思いました。

- ・遠方からの参加者も参加することができるため
- ・会場で対面で参加されたい方および自宅等でリラックスした環境で参加されたい方双方のニーズを満たすことができるため
- ・対面を主に、主な講演はオンラインで流しても良いのではと思います。
- ・研究発表に加えて人的な交流がある方が、デジタル時代に必要かと。
- ・開催：常に新しい情報をインプットできる貴重な機会です。
- ・特になし

(d) 決め難い : 2 名(7%)

理由：

- ・比較的遠隔地に在住しているため個人的にはオンライン対応があることは非常に助かりますが、対面交流も大切にしたいと考えています。

1-2. 学生会員 2 名

High Flex : 2 名(100%)

理由：

- ・都合がつけば対面で参加したいが、オンラインなら参加できるという日程もあるため
- ・日時によって対面で参加できない場合でも Zoom で参加できる場合があるから。

2. 支部大会についての具体的な希望（入力回答すべてを掲載）

- ・具体的な方は存じ上げませんが、台湾での AI を活用した英語教育について関心があります。
- ・AI 時代の英語教育
- ・AI and language learning
- ・AI についての内容が様々な場所で聞かれるので、そろそろ他の話題にしてはどうか
- ・広く、「質的研究」につきまして
- ・ビジュアル・ナラティブについての分析ワークショップ フィンランドの研究者

- ・ Paul Kim 先生
- ・ 西田理恵子先生に、潜在曲線モデルのお話を伺いたいです。
- ・ 合理的配慮を含め、多様な学びの提供について
- ・ 特にジャンルの希望はないが、お話を聞きするだけの形態ではなく、共に交流しながら学びを深める形態が恋しくなりました。
- ・ 開催時期は、例年通り 7月を希望します。

3. 支部講演会について（入力回答すべてを掲載）

- ・ オート（またはデュオ）エスノグラフィーに興味があります。
- ・ ビジュアル・ナラティブについての分析ワークショッピング
- ・ Peter MacIntyre (willingness to communicate など心理系の人を希望しています)
- ・ 具体的な方は存じ上げませんが、台湾での AI を活用した英語教育について関心があります。
- ・ AI 時代の英語教育
- ・ AI and language learning
- ・ 同上（特にジャンルの希望はないが、お話を聞きするだけの形態ではなく、共に交流しながら学びを深める形態が恋しくなりました。）

4. その他、関東支部運営に対する希望（入力回答すべてを掲載）

- ・ 英語だけでなく他言語研究者との話し合いの機会があると参考になります。
- ・ いつもメールを頂きありがとうございます。先生方の丁寧なお仕事のおかげで気持ちよく入会し、先日の国際大会にも参加することができました。感謝申し上げます。
- ・ 主催者におまかせします。
- ・ いつもお世話になっております。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。
- ・ いつも感謝しております。
- ・ ニューズレターに、少しカジュアルな内容を入れてもいいかな、とふと思いました。たとえば、

毎回どなたか（2名ほど？）に趣味の話を書いて頂く、など。そして執筆者は、タモリさんの『笑っていいとも』のテレフォンショッキングの「友達の輪」方式で次の方を選んで頂く（もしも直近でお願いしたことのある方ならば他の方を推薦して頂く）というやり方ならば、ニュースレター委員にも選定の負担はかかるないかなと思いました。

JACET 関東支部講演会（第1回）報告

支部講演会委員長

青木理香（東洋大学）

JACET 関東支部講演会（第1回）報告

日時：2025年6月21日（土）16:00～17:20

講師：渡辺 敏子 先生（文教大学文学部

英米語英米文学科教授）

場所：オンライン（Zoom）

日本語題目：リフレクションとは？：

その変化と発展

発表概要：

リフレクション・振り返りは John Dewey の『How we think』（1910）にその源を発し、Donald Schön の『The Reflective Practitioner』（1983）により職能開発におけるその重要性が広く認識されるようになったといわれている。その後、振り返りは様々な分野において職能開発のみならず学習者の成長にも不可欠な実践として認識されてきた。しかし振り返りとは何か、どのように行うべきか、アクションリサーチとの違いは何かなど、いまだに不明瞭な印象を与えていていることも否めない。本講演では振り返りの概念が、教育学的思潮や潮流の影響を受けながら変化、発展してきた過程をたどり、研究実践例から、振り返りとは何かについて考える機会を提供する。

報告：

本講演では、リフレクション・振り返りの概念が教育学的思潮や時代の潮流の影響を受けながら変化してきた過程が丁寧に紹介され、先生ご自身の研究実践例を通じて「振り返りとは何か」を考える機会が提供された。Dewey の「前例を疑う」という定義から始まり、参加者とインタラクティブに各定義の要点を検討しながら進められた。2000 年代以降は、他者を通して自分を知ること、dialogue や collaboration を重視する定義が登場し、社会構成主義的な影響が指摘されている。リフレクションの定義は時代や研究者によってさまざまであるが、このような定義の曖昧さは否定的に捉えるべきものではなく、むしろ異なる視点を可能にし、各教員が自らの reflective practice を考えるきっかけとなるとされた。

次に、リフレクションに関する主要なフレームワークとして、PDCA サイクル、Kolb の経験学習サイクル、Korthagen の ALACT モデル、そして先生ご自身の Watanabe (2021) のモデルが紹介された。さらに autoethnography や duoethnography といった近年の潮流も取り上げられた。講演者の研究としては「異校種間教師のオンラインコミュニティ」や「過去のジャーナルを読み返して感じたことを話し合う実践」が紹介され、多様な振り返りや意味づけのパターンが確認されたことを明らかにされた。

まとめとして、振り返りは定義が曖昧だからこそ多くの人が取り組むことができ、その目的は変化を求めるではなく、自分や経験を理解し意味づけることにあると強調された。参加者にとっては、理論史を踏まえて振り返りの意義を再確認し、自身の実践に生かすための新たな視点を得る有意義な時間となった。（青木理香・東洋大学）

各委員会からの報告

【支部講演会委員会】

支部講演会委員長 青木理香（東洋大学）

■2025 年度上半期活動報告■

2025 年度上半期は、6 月 21 日（土）に第 1 回支部講演会を行った。講師には渡辺敦子先生（文教大学文学部英米語英米文学科教授）をお招きし、「リフレクションとは？：その変化と発展」というタイトルでご講演いただいた。約 70 名の申し込みがあり、盛会のうちに終了した。

■2025 年度下半期活動計画■

2025 年度下半期は、10 月 4 日（土）に、藤田恵里子先生（日本大学商学部准教授）をお招きし、「“できる気がする”を科学する—自己効力感の見える化—」というタイトルで第 2 回支部講演会を開催予定である。また、12 月 13 日（土）に山内豊先生（創価大学教育学部教授）による第 3 回支部講演会を予定している。

【支部紀要編集委員会】

支部紀要編集委員長 鈴木健太郎
(北海道教育大学)

紀要編集委員会では、2026 年 3 月発行予定の第 13 号に向けて準備を進めております。原稿募集は 8 月末をもって締め切られ、多様なトピックに関するご投稿をいただきました。

今年度からは、中竹真依子先生（学習院大学）に副委員長を、稻田貴子先生（日本保健医療大学）に委員をそれぞれお引き受けいただきました。

また新たな取り組みとして、査読評価表のフォーマットを修正するとともにバイリンガル化を行い、査読を通じた双方のコミュニケーションがより円滑で分かりやすくなるよう努めました。この場を借りて、ご協力いただいた委員の皆さんに厚く御礼申し上げます。

投稿者、査読者、編集委員、支部運営委員、そして会員の皆さまのおかげで、毎年すばらしい紀要を刊行することができております。今年度も紀要編集委員会の活動に、引き続きご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

事務局だより

支部事務局幹事

佐竹由帆（青山学院大学）

■JACET 関東支部講演会および支部企画のお知らせ■

2025 年度の今後の関東支部講演会及び関東支部企画開催予定は以下の通りです。詳しくは関東支部ホームページ (<http://www.jacet-kanto.org/>) もご覧ください。多くの方のご参加をお待ちしております。

◇2025 年度第 2 回関東支部講演会

日程：10月 4 日（土）

講師：藤田恵里子先生（日本大学）

内容：自己効力感について

◇JACET 関東支部企画

日時：2025 年 11 月 8 日（土）14:30～15:50

（支部総会の直後）

講師：藤原康弘先生（名城大学）

城座沙蘭先生（国際基督教大学）

テーマ：国際英語時代における英語教員養成の

再設計：授業実践と全国カリキュラム

調査

開催形態：オンライン（Zoom）

概要：

国際英語の視点は、英語教員養成や英語教育の「何を・誰が・どう教えるか」を再設計する鍵である。本講演の前半（藤原）では、GELT が統合する EIL・WE・ELF・translingualism・批判的応用言語学に基づく授業実践を取り上げる。多様

な英語への接触活動、国際英語論を踏まえた教育内容や評価の再検討を通じて、受講生がネイティブ主義から離れ、自他の英語を捉え直す過程を報告する。後半（城座）では、全国の教職課程調査をもとに、国際英語関連トピックがどの程度扱われているか、また担当者がその必要性をどう評価しているかを報告する。さらに、教員人材の多様化や国際的オンライン交流機会の常設化といった改革の方向性を示し、今後の英語教員養成の課題と展望を議論する。

◇2025 年度第 3 回関東支部講演会

日程：12 月 13 日（土）

講師：山内豊先生（創価大学）

内容：シャドーイングの自動評価、生成 AI を活用したスピーチング評価などについて

■住所変更届提出のお願い■

転居やメールアドレス変更など登録情報変更の際には、JACET 本部事務局へ変更届を提出してくださいますよう、どうぞよろしくお願ひいたします。

支部総会の開催について

日時：11/8（土）14:00～14:20

開催形態：オンライン（Zoom）

会員の皆さんには何卒出席のほどよろしくお願い申し上げます。

※同日 14:30 より「支部企画」がござります。

JACET-Kanto Newsletter 第 25 号

発行日：2025 年 9 月 30 日

発行者：JACET 関東支部（支部長 鈴木彩子）

編集者：伊藤泰子、下山幸成、大野真機、長田恵理、山口高領

発行所：〒150-8366 東京都渋谷区渋谷 4-4-25

青山学院大学 佐竹由帆 研究室